

<福島県知事賞最優秀賞>

## 暮らしのために生きる税金

会津若松ザベリオ学園中学校

3年 さとう あやか  
佐藤 綾香

昨年、中央自動車道笹子トンネルで、天井板が崩落し多数の死傷者が出た事故は記憶に新しい。

私の住む会津若松市は、周囲を山々に囲まれた盆地にあるため、他の市町村に行くには必ずトンネルを使用しなければならない。今回の笹子トンネル事故は、他人事ではなく身近な出来事として強い恐怖を感じた。

どうしてこのような悲惨な事故が起きてしまったのか。報道によると、今から50年ほど前、日本は高度経済成長期を迎え、橋や道路、上下水道などのインフラ整備を急速に進めていた。その後も、それらの整備事業は都市部だけでなく地方にも広がっていった。このことで、現在の私たちの生活は利便性が増し住みよい社会となった。しかし、半世紀が経ち、橋や道路などは老朽化が進み、至る所でコンクリート片の落下や亀裂などが生じていると聞く。今回の事故も天井板を支えるボルトの劣化が原因であると報道されていた。

現在、インフラの老朽化は、社会的な問題として取り上げられている。私たちの命や生活に直接関わる問題として、早急に取り組まなければならない課題でもある。しかし、こうしたインフラ整備を行うには数兆円とも言われる莫大な費用が必要となる。では、この費用をどうするのか。

私は、日本の財政について調べてみた。現在、日本は930兆円を超える借金を抱えていることを知った。赤ちゃんも含めて、国民一人あたりが700万円以上もの借金を負担している計算になる。さらに、日本は少子高齢化が急速に進み、税金を納める若者も少ない。それによって税収も年々減少するといった問題もあるということがわかった。これからの時代を生きる私たちにとって、負担の大きさを考えると、未来は決して明る

いものではないことを知り、愕然となった。

税金を納めるということは、誰にとっても決してうれしいことではないだろう。私も買い物時、消費税を取られることに少し抵抗がある。しかし、こうして税金を納めることによって、国の税収が増え、財政面での安定が図れるなら、私は仕方がないことだと思ふ。

私たちが大人になった時、日本は今のように衣食住に満ち足り、住みよい国であるためには、国の税収を安定させることが最も重要であると考えます。税収が安定すれば、税金を使って、あらゆる整備事業がスムーズに行われる。すなわち、国民の命を守り、安全・安心な暮らしが保障されるということになる。

私たちは、これから大人になり、消費税のみならず、あらゆる税金を納める立場となる。国民から納められる税金は、国民のために平等かつ健全な形で、有意義に使われていくことが国民の願いであり、日本が進むべき正しい税の在り方であると私は考える。